

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東海市立あすなろ学園		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達支援を多職種（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・保育士・看護師）で行っているため、様々な障害に対応できる。また、様々な側面から子どもの発達をとらえることにより、子ども理解が深まる。	・専門的な見解を含めた発達状況の把握や個々の情報など、支援者間で共有し子ども理解や支援方法に活かしている。	・担当者会議や情報共有の時間の確保。 ・それぞれの職種の行っている支援について相互理解をした上で、話し合いをする。
2	・給食時に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が摂食評価を行い、一人一人に応じた食形態、食具、姿勢保持のための椅子の提案をしている。	・児の様子をよく観察し、保護者の聞き取りからの情報も含めて、摂食評価をする。 ・食形態、および食具の決定は、看護師を含めた複数の職員で決定する。	・摂食評価の内容について、食事介助を行う職員で共有し、定期的に振り返りを実施することにより、常に児に合った食事形態が提供できるようにする。 ・他の機関（病院など）から摂食評価のアドバイスを受ける。
3	・肢体不自由及び、身体発達の遅れがある児への支援が充実している。	・子どもたちが自ら、動きたくなるような環境の工夫。 ・相手に合わせて身体を動かすことができるよう、毎日「リズム」を実施している。 ・集団保育、生活の場での姿勢保持や動線について、専門職からの助言をもらう。	・小集団での生活や保育のねらいを理解したうえで、助言や保育参加、保護者指導ができると多職種との連携が深められる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・知的発達の遅れや特性のある子への対応が一貫していない。	・職員の経験不足 ・環境が構造化されていない	・他施設への実習や見学を行う ・視覚化、パーテーションなどを活用 ・ケース検討などで共通認識をする
2	・親子療育の必要性の伝え方が弱い。	・各職員の認識の相違がある。 ・職員の親子療育の経験不足	・研修や他施設見学などに参加する。 ・親子療育の必要性を職員間で共通認識をして、意識を強く持つ。 ・保護者について、情報共有をする。